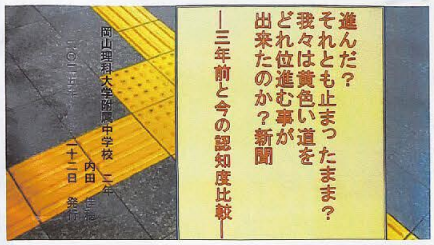
岡山市・岡山理科大
付属中２年　**内田　佳穂**さん

中学校　岡山市長賞

進んだ？それとも止まったまま？我々は黄色い道をどれ位進む事が出来たのか？新聞



点字ブロックの出身地はどこ？

点字ブロックは、視覚障害者の安全で快適な移動を支援するための公共機能。一九六五年に、昭和四〇〇年に、昭和四十二）年三月十八日、岡山県立岡山盲学校（現、岡山県立点字図書館）近くの国道二五〇号線交差点付近で、当時の点字ブロックは黄色と赤色のレンガ状で、半円球の突起が四十九個付くレンガ状の四方のコンクリートブロックだったと報道にある。

つまり、【岡山県出身】なのである。

尚、三月十八日の日は「点字ブロックの日」と、日本記念日協会からも認定・登録されている。

岡山市中区原尾島交差点

3月18日にはGoogleのTop画面も点字ブロックに

認知度に変化はあったのか？

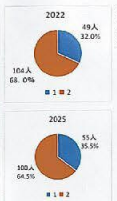
小学生の頃に実施した「点字ブロック」アンケートを基にした「認知度」について、「経過年数」と、「比べて、今はどうなったのか。

点字用ブロックとは、「正式名称は視覚障害者誘導用ブロック」。視覚障害者の歩行を支援するために、視覚障害者の触覚でできる触覚を通じて、お伝えする。「主に形に状態を伝えるように、ブロックの存在を知らせる。「情報を伝える。「歩行者に、「よい正確な歩行位置を案内する。

そこで、再度同じ調査を行う事にした。

アンケート概要

・二〇二二年七月十一日～八月十一日
一五三名
・二〇二五年八月十七日～三十日
一五五名
小学校・中学校・塾の友人・父母の会社の人等に実施



結果は、どうだったか。岡山県発祥と知っていた人を①、知らなかった人を②としている。

三年間の人が聞で、若干は増えているが、半数以上の人が知らない結果だった。

そこで、県内と県外の人で違いがあるかを検討してみた。

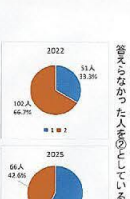
何故点字ブロックは黄色なのか？

点字ブロックは全く目の見えない「全盲者」だけ対しているのは、実は「黄色」なのである。

視者に対しても、実は「黄色」なのである。

弱者が歩道にあるとよく目立つ。暗い所でもよく目立つ色である。その為、弱視者は黄色を目印に沿って歩くことで歩道を逸それず、安全に進むことができる。重要なのは、周囲の路面と区別しやすいことだから、必ずしも黄色であればよいというわけではなく、路面の色とコントラストが強いことが求められている。

しかし、実際には、景観を理由にあまりにも目立ってしまうと、建物の外観や雰囲気に合わない色を採用したり、建物の通路と同系色にしたりしている場合もある。そのため、点字ブロックがあるのだけれども、視覚障害のある人にとっては、見えにくく歩行がしにくいという問題が発生している。



点字ブロックの種類を知っているか？

踏切に使用される色は主に「黄色」と「黒」であり、これは警告色としての役割を担っているという結果だった。

「アンケート」を通じて、小学生の時と今での違いも結果に影響した可能性がある。

黄色い理由を答えられた人はどれくらいいたのだろうか、一つでも答えた人を①、答えなかった人を②としている

線状ブロック「Go」の意味
点状ブロック「Stop」の意味

点字ブロックには、「線状ブロック」「誘導ブロック」と、「点状ブロック」「警告ブロック」がある。

使う人の気持ちに立てているだろうか？

線状ブロックは、直線誘導のためのブロックで、歩行が地まで敷設されており、基本的には連続して一列に敷設されている。

点状ブロックは、必要な場合や、投行経路路の設置なので、直線状に形状をしており、基本的には連続して一列に敷設されている。

このニつを知っていた人を①、知らなかった人を②としている

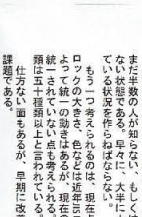
二十二年も、二十五年も、多くの人が目にしてしまっている。これでは、必要な人が使えずに困ってしまう。多い理由が、「興味」を持ったからそれ目にしたのなら良い事。

障害物の上に障害物があるものも見た。

「具体的に増えなくて大丈夫」であると考える。

「もしのなら、障害物の上に障害物があるものも見た。

「何べる必要がある」。「障害物を見た人に、具体的にどんな物が点字ブロックの上にあったのかを聞いてみた。



認知度合い」として注目増えているものの、未だ半数ではない。もしくは興味がない状態である。早々に、大半に人が知っている状況を作らねばならない。

もう一つ考えられるのは、「現在点字ブロックの大部分は逆形二規格」によって、統一されていない点も考えられる。その結果、「五十種類以上とされている。

仕方ない面もあるが、早期に改善すべき課題である。

今回の調査で見えた課題と対策

今回の調査で、多くの課題が見えてきた。それが三つ点である。

①岡山県発祥の「点字ブロック」の認知度が極端に低い事

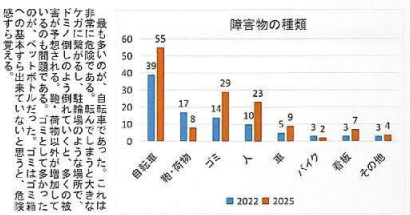
②「点字ブロック」の持つ大切な意味（色や種類等）が半数の人に知られていない事

③「点字ブロック」の上に障害物があり、必要な人が使いにくい事

これらに対し、私が出来る事は何かを考えた。それは、「点字ブロック」をテーマにして情報発信を行い、一人でも多くの人に興味をもってもらう事

②他人事ではなく、自分事として捉えてもらう事

③障害物を見つけたら率先して除く事



最も多いのが、自転車である。これは非常に危険である。自転車でしまうと、駐輪場のような場所で、多くの人が怪我をしたり、倒されたり、倒れて物いくと、ドミノ倒しのように倒れていくと、荷物・被害が増加する。また外が加えて、物・被害が増加する。

いるのがもっとも問題である。

のがもっとも問題である。

「基本すらも出来ていないと思うと、ミ箱への基本すらも出来ていないと思うと、「危険」

寸評

岡山発祥の点字ブロックの認知度を調べるアンケートを実施。色や役割、問題点などの調査結果をグラフ化し、３年前のデータと比較しています。課題解決へ向け、多くの人に協力を呼びかける内容となっています。

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。